

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1071100372		
法人名	株式会社ティエムコーポレイション		
事業所名	グループホームけやき		
所在地	群馬県安中市宿1-9-17		
自己評価作成日		評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	令和3年11月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・病院との連携が出来ており、安心して健康管理に努めている。 ・終末期においても安心して最期を迎えられる様、支援している。 ・外部、地域等との交流を図っている(コロナ禍の為、控えている)。

<p>事業所には24時間対応の二人の非常勤の看護師がおり、日常での利用者への支援はもとより、重度化や看取りに際しての安心した介護ケアを実現している。また、災害訓練では利用者をシートに載せての避難訓練など、実践的な訓練への取り組みや、隣接する地域の方の駐車場を避難場所とするなど、地域住民や利用者家族・職員家族も協力しての避難訓練を実施している。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の		63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらい	
		4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある		64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように	
		2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度	
		3. たまにある				3. たまに	
		4. ほとんどない				4. ほとんどない	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が		65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない	
		4. ほとんどいない				4. 全くいない	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が		66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が		67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が		68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が					
		2. 利用者の2/3くらいが					
		3. 利用者の1/3くらいが					
		4. ほとんどいない					

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ミーティング等で理念の振り返り、確認をし共有して実践しています。	開所時の理念を掲げているが、16年経過して、利用者の介護度も上がり、状況も変わってきていることで、毎月のミーティングやモニタリングの中でケアについての話し合いが行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	例年であれば地域のお祭り、保育園の行事等、地域の方が声を掛けて下さり交流していますがコロナ禍の為、控えています。	利用者の希望により、ドライブに行き、景色を楽しんでいる。以前は、園児や歌のボランティアの方が来所し、話が弾むなどの交流が持てたが、コロナ禍では難しくなっている。地域の方は利用者の事を知っているため、無断外出の利用者探しや呼び止めて事業所に連絡するなど協力的である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	来所時には利用者と交流してもらう等、施設を開放的にしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回の定期会議を開き報告、承認、意見、アドバイスを頂いています。職員へも報告しサービス向上に活かすようにしています。	2ヶ月に1回の会議には、コロナ禍前は家族の参加があったが、今は市の職員と関係者が出席し、3事業所合同で開催している。各事業所の介護方法など職員間で報告しあい、サービスの向上に活かしている。議事録は家族に送付して事業所の取り組みを報告し、関係の継続に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者に質問、意見、指導を頂き、何かあれば報告するように取り組んでいます。	市職員が運営推進会議に参加していることから、些細なことにも電話や市に出向き相談している。また、事業所の空き情報や利用者の日頃の状況など、市の担当者と連携を図り良好な関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は理解しており、やむを得ない理由においては手続きを取り実践し極力解除できる方向で目標に取り組んでいます。	職員は、ミーティング等で身体拘束しないケアについて話し合う機会を持っている。やむを得ず、事業所が交通量の多い道路に面している事や、職員の手薄時等には、利用者の安全を守るため、家族に説明し、一部の利用者に一時的に安全ベルトを状況変化に応じて使用している。	身体拘束の記録の取り方を工夫し、その状況や変化が評価につながり、さらに、プランに繋がるように検討することを、期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の意識を強く共有し身体的観察も怠らず、言動的にも虐待の見過ごさないよう注意を払い防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員ともに学ぶ機会を持ち理解に努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	代表者、管理者、介護支援専門員が中心となり、家族の理解と納得を図っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営会議には家族が出席し、意見を発表する機会とし、また、面会や支払い等の来所時には意見や要望等が無いはず聞いています。	家族からの意見・要望は、面会時等に聴取し、個々のケアに取り組んでいるが、運営面については特に意見や要望は出されていない。	具体的な運営に関する呼びかけや、投げかけを行い、家族も運営に参加している意識づけが出来るように、働きかけることを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや全体会議を行い職員の意見を聞く機会を設け反映しています。	月1回の全体会議に法人代表も出席して、職員と意見交換が行われている。昼の休憩時間の取り方や、コロナ禍での利用者との食事形態など、具体的な事にも話し合いがなされて、運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境、条件について十分把握し、職員が生き生きと勤務できるよう努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修機会を確保するためソフト面、金銭面でできるだけ支援し、職員全員の実力アップになるようにしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の連絡会議の場などで情報交換などを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	全職員が本人からの話を十分に傾聴し信頼して頂けるように努力しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族ともお会いして十分に話をしてもらえるように耳を傾け、理解、納得できる関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としている支援を見極めて家族と話し合い、支援できる力を考え、サービス対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が出来る事(洗濯畳み、新聞折り)をして頂き、寄り添う姿勢を保つように心掛け、昔の話や習慣等も教えて貰い、なじみの関係を築くようにしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族の話に耳を傾けると同時に本人と家族の関係を大切にしたい関係作りに努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の生活歴や交流関係等の情報を共有し、途切れないよう支援に努めています。	帰宅願望の強い利用者には、職員が見守りながら自宅に行く事や、地域の祭りに参加していた利用者には、参加できる援助を行っている。また、家族と共に、節目節目の墓参りに出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は、利用者同士の関係把握に努め、対応を考え、孤立状態にならないよう支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	途中解約の例はありませんが、必要に応じて支援に努めます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	傾聴し把握に努めています。	利用者の希望・要望等は、日々の関わりの中で寄り添い、耳を傾け、把握に努めている。利用者の言葉や表情の中からくみ取り、自己決定できるよう援助し、その都度、職員間で話し合わせ介護ケアに繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	介護支援専門員の調査と家族からの情報等から生活歴の把握に努め職員で共有に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタル測定を元に、心身状態を把握し、情報伝達を忘れず、現状把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングを怠らず、連携を活かした介護計画を作成しています。	ケアプランに基づき、介護記録や職員からの聞き取りを基に、モニタリングをケアマネジャーが月1回行っている。介護計画書は家族には来所時に説明し、同意を得ている。変化があれば、サービス担当者会議等を経て、その都度変更している。	全職員が現状、短期目標に向けたケア実現のため、各記録がプランにつながる一貫した記録になるよう期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録をとり、ミーティングやカンファレンス等、職員間で情報を共有しながら実践に繋げています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の状況を踏まえてサービスの多様化に取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握は難しいですが、地域住民として町内外の行事に参加し、交流を深め楽しく暮らせるよう支援していますが、コロナ禍のため控えています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望するかかりつけ医と連携を取り、定期往診・受診の支援をしています。	本人・家族の要望により、3医療機関がかかりつけ医となっている。通院や受診も基本的には家族対応だが、職員が代行することもある。3医療機関からの往診や、非常勤の2人の看護師や協力医による健康管理が行われ、安心出来る体制となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が配置されており、24時間連絡、相談ができています。 必要に応じて訪問看護師が来所しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院との情報交換、相談、主治医との連携等良好にできており協力指導もして頂いています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時点に始まり、状況に応じてその都度説明と方針の確認をし支援しています。	入居時に、事業所が対応できる介護ケアについて説明し、変化に応じてその都度、家族に連絡し、対応している。また、急変時など24時間看護師対応ができ、職員も安心したケアに取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的には訓練は行えていませんが、必要時には看護師を中心にレクチャーをしてもらっています。また、研修に参加して実践に役立てるように努めています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	例年ですと消防署立合いの訓練では地域の方も参加して下さっていましたが、コロナ禍のため、できる範囲の自主訓練で職員の意識化を図っています。	コロナ禍のため、年2回の自主訓練を行っている。水害訓練・火災訓練と、その都度家族や地域の協力もあり、消火器訓練なども行っている。また、避難後の確認などは、居室入口にチョークでチェックして、周囲に知らせる工夫にも取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本的には声掛けや言葉に注意し対応しています。	日々の関わりの中で、声かけの工夫など、その利用者に合わせて行っている。入浴時や排泄時など、言葉かけで確認し、バスタオルやカーテンなどでプライバシーの対応に心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を汲み取り、自己決定できるように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者優先のペースで運び、強制する事なく、その人らしい生活ができるよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望者には、美容師によるカットをホームで実施したり、清潔な身だしなみであるよう支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの食事力に合わせて提供すると共に、お楽しみランチなど計画しています。	食材は業者から届き、その中から利用者に合わせて食事を手作りしている。また、月1回は、お楽しみランチやおやつなど、その季節に合わせてメニューを考え、利用者の希望をかなえながらの楽しい時間を工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、毎食記録を取り、チェック一人ひとりの状態を把握して支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、誘導介助して一人ひとりの口腔ケア、舌のチェックをしています。 夜は義歯を預り消毒しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の排泄チェック表により各々のパターンを活かした支援をしています。	以前は「おむつ外し」のケアに取り組めたが、現在は介護度が上がり難しくなっている。排泄チェック表を使用し、一人ひとりの力量に合わせた排泄の支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取に配慮したり、個々に応じた方法で予防に取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	拒否する方には希望やタイミングに合わせて、入浴が楽しめるよう、個々に沿った支援をしています。	入浴は週2回と決めてはいるが、汚れてしまった場合や希望した時は、その都度対応している。入浴時は、2人介助で、その利用者に合わせた職員や介助方法を行い、入浴中の会話を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの習慣や、その時の心身の状態により安心して休息したり、安心して眠れるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は一人ひとりが使用している薬を把握、理解すると共に、情報を共有しながら変化の確認に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	会話の中からも一人ひとりの嗜好品、楽しみ事等を情報収集し、支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の協力が得られる外出は希望通り支援しています。 普段はドライブ、日光浴等の外出支援をしていますが、コロナ禍のため控えています。	家族の協力もあり、ドライブで近くの梅林や展望の丘など、その時々利用者に合わせて外出支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理が出来る方は家族承諾のもと小遣い程度の金額を持っていましたが、現在該当者はいません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書く都希望される方はいませんが、本人希望で電話したり、職員が判断してかけてあげたりしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るく清潔を保ち、くつろげる場になるよう季節感を取り入れながら空間を作るように工夫しています。	季節が感じられるよう、手作り作品が飾られている。テーブルは一行に、居室に近い・仲の良い利用者同士・トイレに動きやすい等その利用者に合わせた配置にしている。また、椅子には全て足カバーがしてあり、音や滑らないよう工夫がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事以外は好きな所で過ごせるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室のベッド・カーテン以外は自由に持ち込んで頂き、一人ひとりの居室になるように工夫しています。	居室には、タンス・電気カミソリ・テレビなど使い慣れた品々が持ち込まれている。また、利用者の手作り作品や、職員によるお誕生日の手作りの色紙などを壁に貼って、その人らしい居室づくりとなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できる限り自立を妨げないように車椅子対応できる広さや、ベッドや手摺り等配置し安全に配慮しています。		